

データでわかる発注に関する意識

平成 26 年度厚生労働省委託事業における「在宅ワーカーへの発注状況についての調査」の結果を掲載します。

■基本情報

- 対象者：民間企業 5,000 社
- 調査時期：2014 年 8～9 月
- 有効回答数：631 件

■調査項目

1. 在宅ワーカーへの発注経験
2. 在宅ワーカーに仕事を発注するための条件
3. 在宅ワーカーを活用する上で期待するメリット
4. 在宅ワーカーの選考において重視する（重視している）点
5. 在宅ワーカーに発注している仕事（発注する可能性のある仕事）

注： SA：択一回答 MA：複数回答 n：回答数

■調査結果

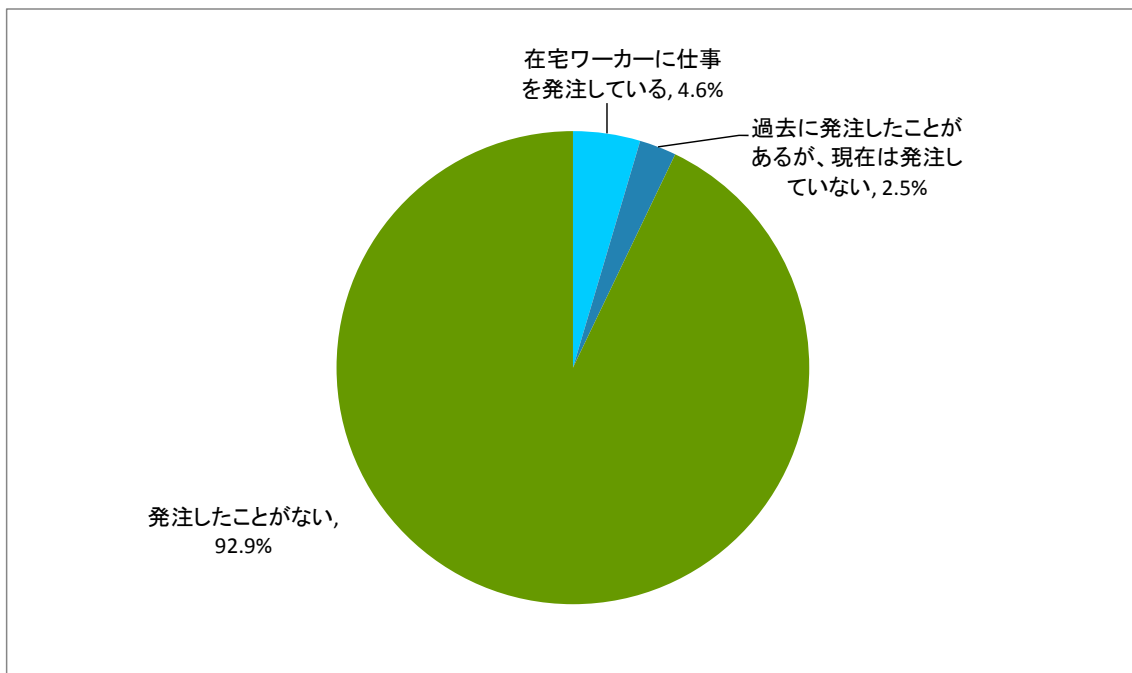
1. 在宅ワーカーへの発注経験（SA, n=631）

貴社は、過去に直接、在宅ワーカーに仕事を発注^{※1}したことがあるかお答えください。

※1 在宅ワーカーへの仕事の発注に関しては、在宅ワーカーに直接仕事を発注する他、仲介機関やクラウドソーシングを通じて発注することも含まれます。

在宅ワーカーへの仕事の発注経験については、「発注したことがない」割合が92.9%と最も高く、次いで「在宅ワーカーに仕事を発注している」（4.6%）、「過去に発注したことがあるが、現在は発注していない」（2.5%）の順である。

これにより、「発注したことがない」に該当する「未発注企業」が586社、「在宅ワーカーに仕事を発注している」に該当する「発注企業」が29社、「過去に発注したことがあるが、現在は発注していない」に該当する「発注経験のある未発注企業」が16社となる。

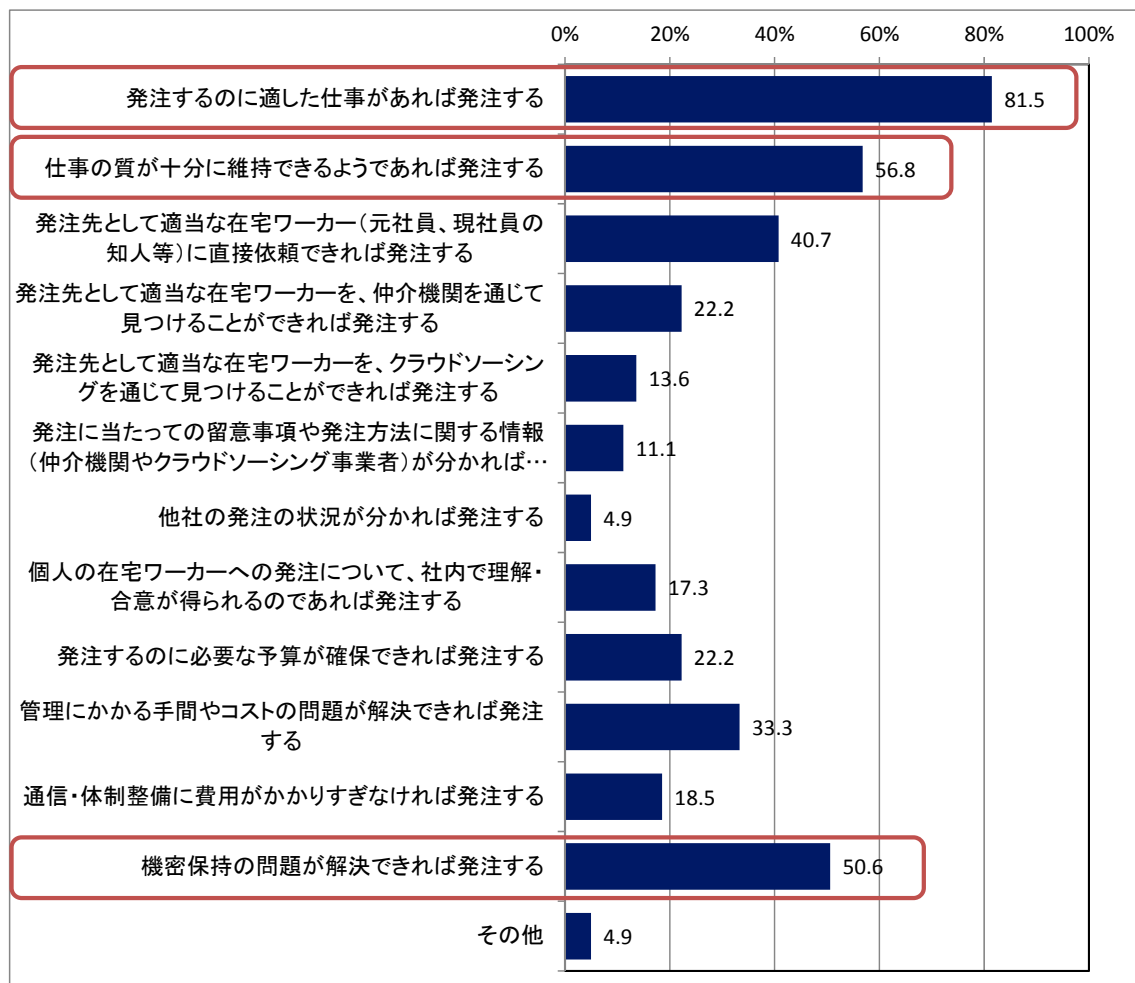


2. 在宅ワーカーに仕事を発注するための条件 (MA, n=81)

どのような条件を整えば、在宅ワーカーに仕事を発注する可能性がありますか。該当するものすべてを選択してください。

在宅ワーカーに仕事を発注する可能性があるとして回答した「未発注企業」(66社)及び「発注経験のある未発注企業」(15社)が、在宅ワーカーに仕事を発注するための条件としてあげている項目は、「発注するのに適した仕事があれば発注する」割合が81.5%と最も高く、次いで「仕事の質が十分に維持できるようであれば発注する」(56.8%)、「機密保持の問題が解決できれば発注する」(50.6%)の順である。

このように、「発注するのに適した仕事」があったり、「仕事の質が十分に維持」できることがわかったり、「機密保持の問題が解決」できれば、在宅ワーカーに仕事を発注する可能性が高くなることがわかる。

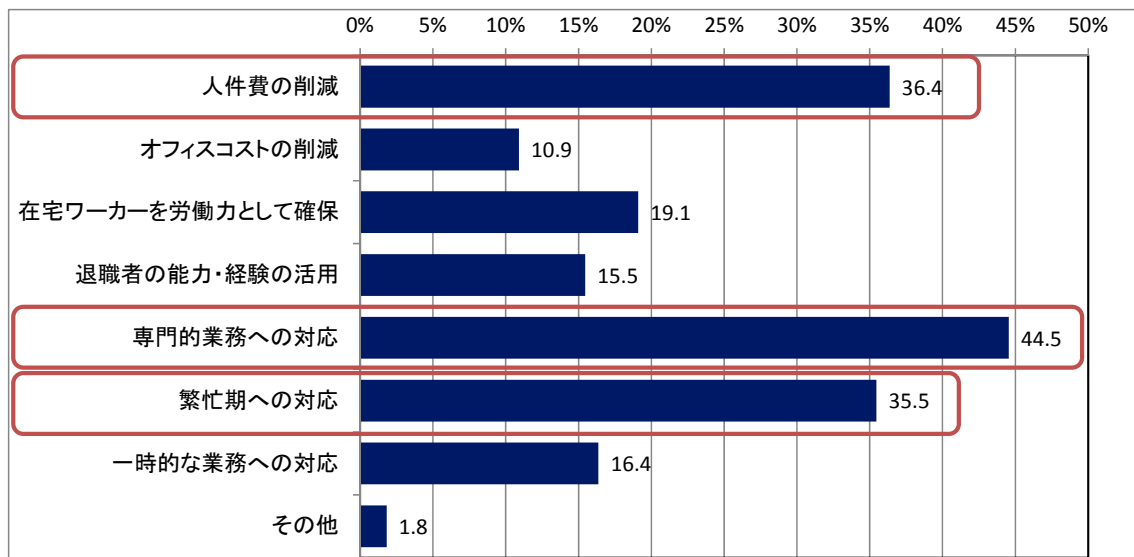


3. 在宅ワーカーを活用する上で期待するメリット (MA, n=110)

在宅ワーカーを活用する上で、期待するメリットは何ですか。該当するものを2つまでお答えください。

在宅ワーカーに仕事を発注する可能性があるとして回答した「未発注企業」(66社)及び「発注経験のある未発注企業」(15社)、「発注企業」(29社)が、在宅ワーカーを活用する上で期待するメリットとしてあげている項目を見ると、「専門的業務への対応」の割合が44.5%と最も高く、次いで「人件費の削減」(36.4%)、「繁忙期への対応」(35.5%)の順である。

このように、在宅ワーカーを活用の際には、コスト削減や繁忙期への対応以上に、専門的業務への対応で期待されていることがわかる。

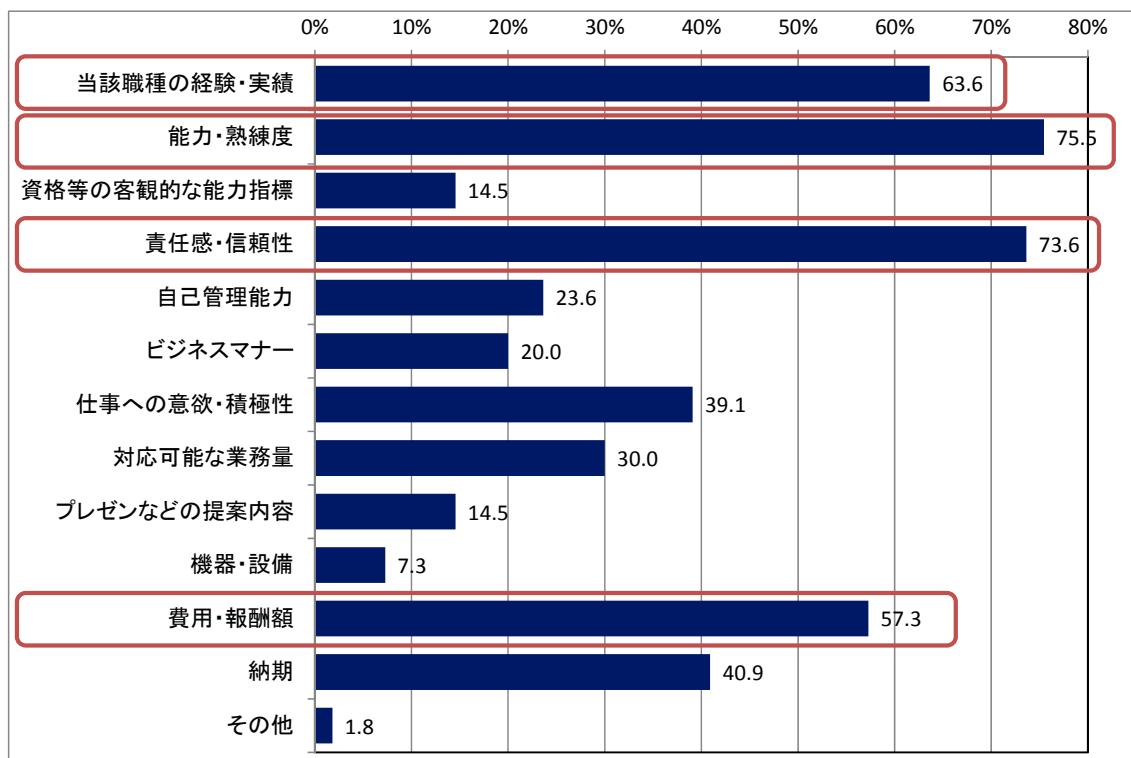


4. 在宅ワーカーの選考において重視する（重視している）点（MA, n=110）

在宅ワーカーの選考において重視する（重視している）点について、該当するものすべてを選択してください。

在宅ワーカーに仕事を発注する可能性があると回答した「未発注企業」（66社）及び「発注経験のある未発注企業」（15社）、「発注企業」（29社）が、在宅ワーカーの選考において重視する（重視している）点を見ると、「能力・熟練度」の割合が75.5%と最も高く、次いで「責任感・信頼性」（73.6%）、「当該職種の経験・実績」（63.6%）、「費用・報酬額」（57.3%）の順である。

このように、在宅ワーカーの選考において、経験や能力といったスキルと共に、責任感や信頼感も重視していることがわかる。

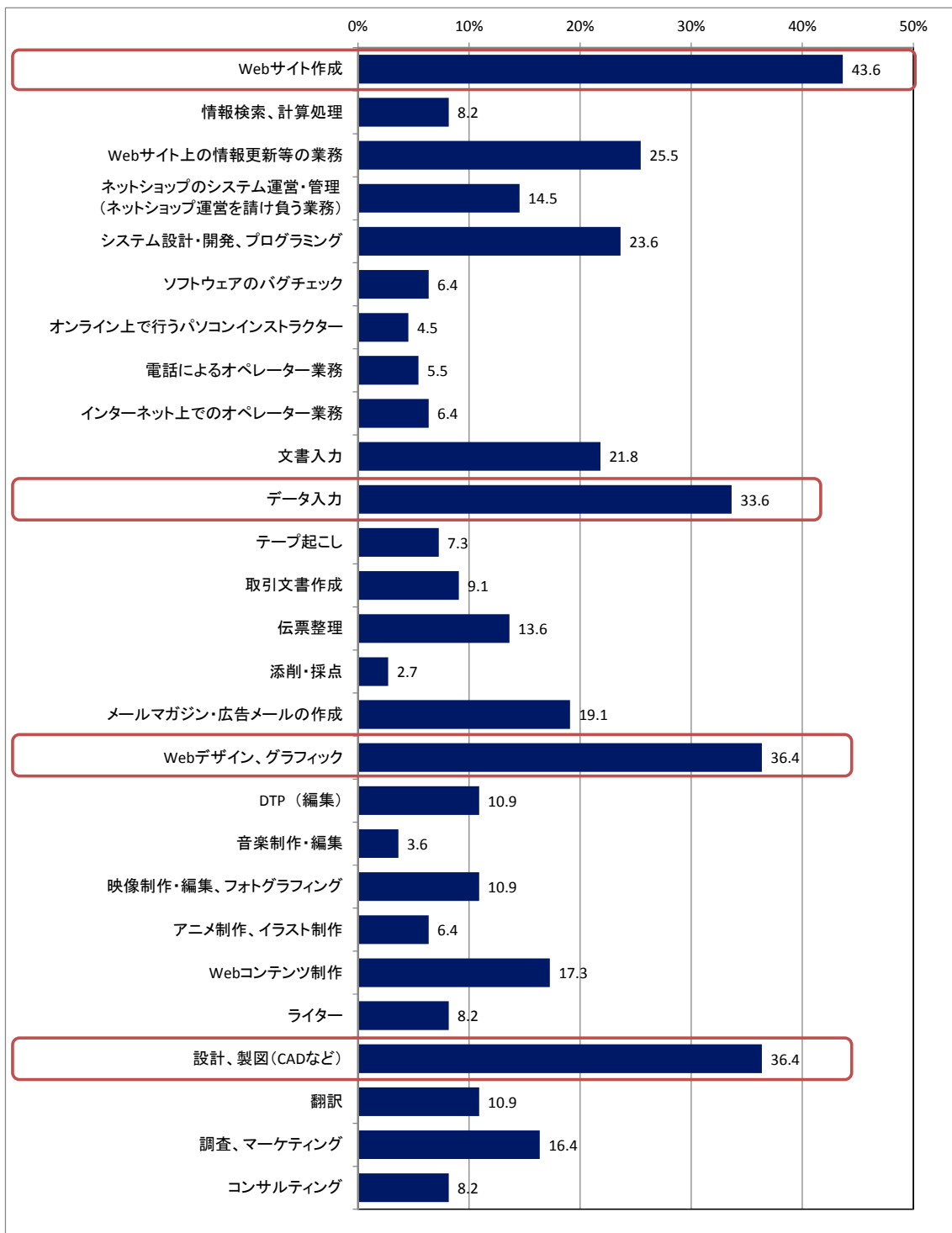


5. 在宅ワーカーに発注している仕事（発注する可能性のある仕事）（MA, n=110）

現在、在宅ワーカーへ発注している仕事について、該当するものすべてを選択してください（在宅ワーカーへ仕事を発注する場合、どのような仕事を発注する可能性がありますか。該当するものすべてを選択してください）。

在宅ワーカーに仕事を発注する可能性があるとは回答した「未発注企業」（66社）及び「発注経験のある未発注企業」（15社）、「発注企業」（29社）が、在宅ワーカーに発注する可能性のある仕事（発注している仕事）として上げている仕事を見ると、「Webサイト作成」の割合が43.6%と最も高く、次いで「Webデザイン、グラフィック」及び「設計、製図（CADなど）」の割合がそれぞれ36.4%、「データ入力」の割合が33.6%である。

このように、ITスキルやデザインのスキルが求められると共に、従来からあるデータの入力業務も求められていることがわかる。



以上